

ジュニア賞

友達紹介所

平田 純零（高校1年生：福井県）

私たちは日常の中で、人の性格を「無口」「心配性」「言い方がきつい」など、一つの言葉で捉えがちである。これらの言葉は多くの場合、短所として扱われ、その人の印象や人間関係にまで影響を与える。特に子どもは、周囲から向けられた言葉をそのまま受け取りやすく、レッテルが固定されやすいという課題がある。

しかし、同じ性格でも状況や関係性によって評価は変化する。例えば「無口」は「落ち着いている」「聞き上手」と捉えることができ、「言い方がきつい」は「正直に伝えられる」「意見をはっきり言える」と言い換えられる。このように性格は固定されたものではなく、「どの条件で見るか」によって意味が変わると考える。

そこで本企画では、「ひとつの条件が加わることで性格の価値が反転する」体験を生むカードゲームを提案する。プレイヤーは友だちを探す「お客さん」と紹介する「紹介人」に分かれ、紹介人はネガティブに見える性格を持つ人物を、条件に合う友だちとして言葉を選び直して紹介する。例えば「静かに過ごしたい」という条件が提示された場合、「無口」は欠点ではなく適した特性として語られる。

本ゲームの特徴は、正解を決めるのではなく、「なぜその人が合うのか」を言葉で説明し合う点にある。プレイヤー同士が対話を通して、同じ人物に対する多様な見方が可視化され、「見方は選び直せる」という気づきが生まれる。

本企画は、レッテルによる固定的な見方を緩和し、多様な視点で他者を捉える力を育てることを目的とする。遊びの中で言葉の選び方を見直す経験は、人間関係における誤解や対立を減らし、他者理解を深めることにつながる。人を一つのラベルで判断しないコミュニケーションのあり方を提案するものである。